

627 故末松子爵蔵書の寄贈

〔『法学新報』第31卷2(350)号 大正10年2月1日〕

○故末松子爵蔵書の寄贈 故文学博士法学博士末松謙澄子は身を操瓠^(瓠)界に起し英国ケンブリッヂ大学に法学を学び官場の人として通信大臣と為り枢密顧問官として國家に貢献する所大に、学者としては政治法律外末松青萍居士の名は文芸界に嘖嘖たるものあり遺著多く晩年羅馬法の著述の如きは最も力を竭くされたるものにして斯学界の權威たるは世上の知悉する所なり子爵薨去の後遺愛蔵書を如何に処置すへきやは未亡人郁子刀自の最も苦慮せられたる所なりしか宮岡恒次郎氏及同夫人の斡旋に依り故子爵の昵近者たる穂積陳重博士高橋順次郎博士友枝高彦博士等協議の末所蔵の政治、法律及文学に関する英、仏、独及び和漢書千五百有余冊を挙げて中央大学に寄附の議成り旧臘

之を実行せられたり中央大学にては故子爵の遺徳を記念する為め之を一括し末松博士文庫として校内図書館に備へ永く教授、学生を始め一般の閲覧に供する筈なり